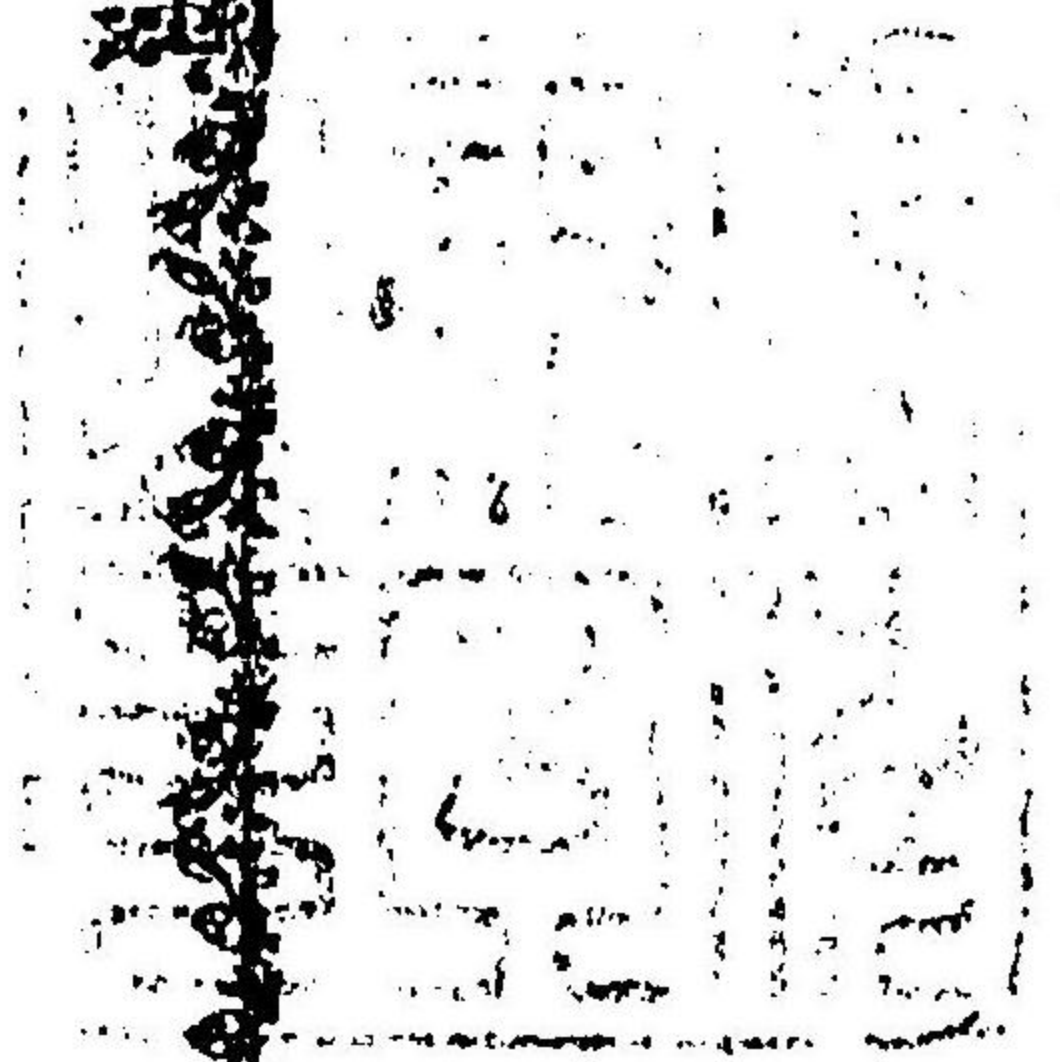


特67

440

宇佐神宮略案内記



013859-000-5

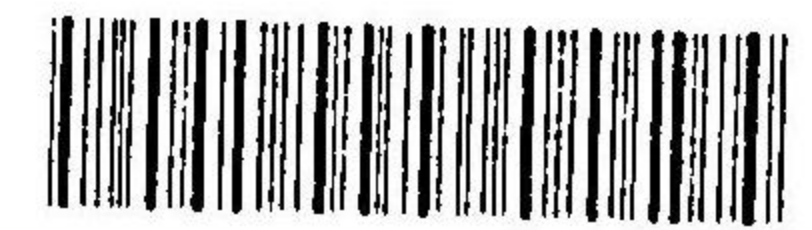
特67-440

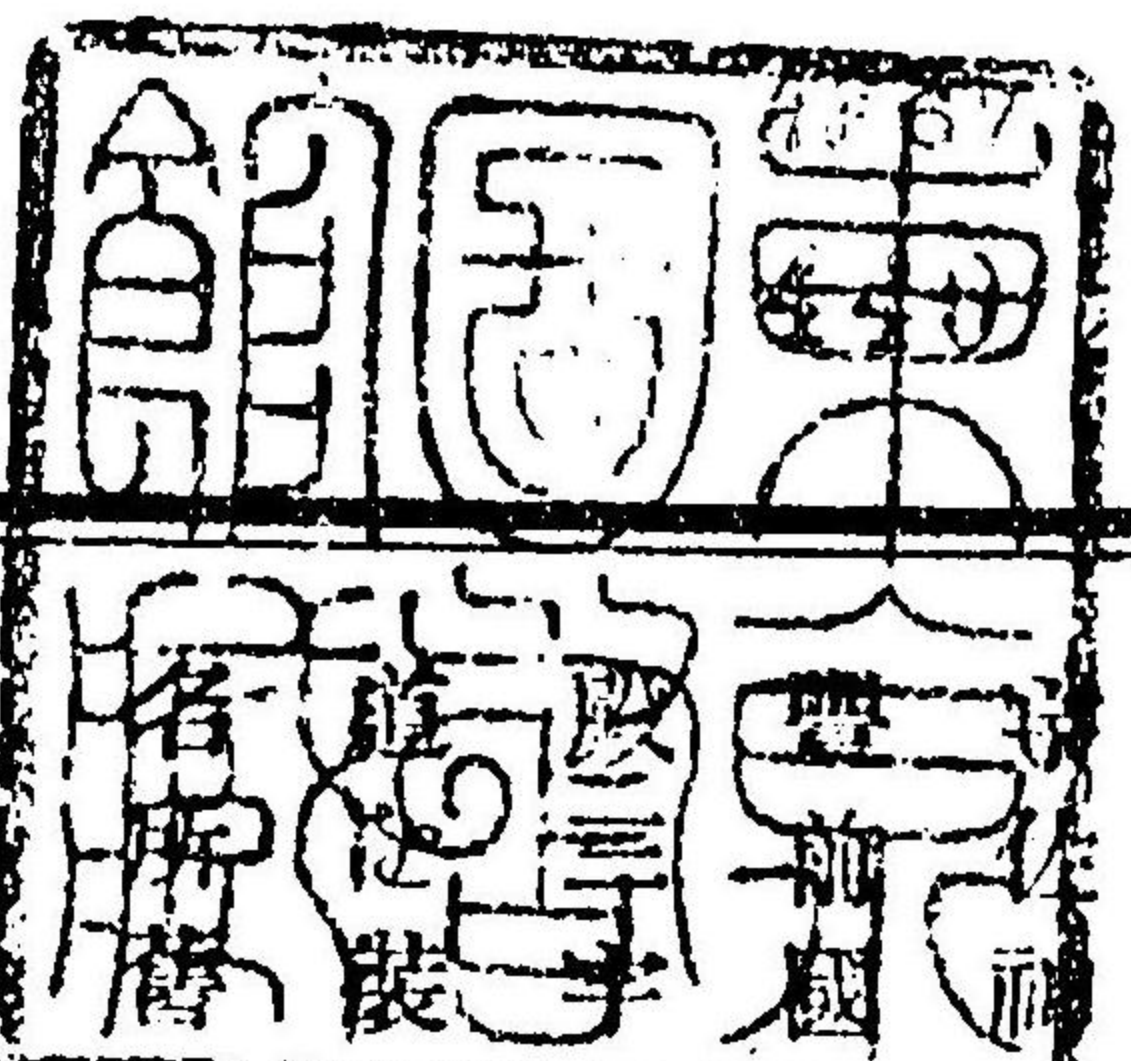
宇佐神宮略案内記

到津 公証 / 刊

M15

ABB-0074





略案内記

宇佐郡宇佐村宇龜山に鎮座す官幣大社宇佐神宮ハ本  
何をも南面よして建物鳥居境内に立列り石壇覽石參  
林樹池水風致を成し攝社末社宮地の内外に鎮座し  
跡神境の東西に散在して頗る盛大の社頭あり

本殿之部

一一之御殿ハ應神天皇の御靈かり欽明天皇御宇三十二年二  
月十日始めて當龜山の麓に顯れ給ひてよ豐前豐後を始  
め國々所々に靈行ありて其地を覓め給ひしも御心よ叶ひ  
し處おしとして終に復聖武天皇御宇神龜二乙丑年二月廿七  
日當山に還り給へるよ依て社を建て齋き奉れり

一二之御殿ハ比賣大神かり昔神代ハ天照大御神須佐之男命  
と御誓約の間ハ生出給ひて皇孫命を助け奉りて皇孫命ハ  
齋き奉られよとの詔を受け給ひて吾豊國の宇佐島即ち今  
の大元山ハ天降り鎮り給ひ後聖武天皇御宇天平元己巳年  
神託ありて今の宮處ハ降り鎮り給へるに依りて社を立て  
齋き奉れり

一三之御殿ハ神功皇后の御靈かり嵯峨天皇御宇弘仁十一庚  
子年御神託あるハ依りて社を立て齋き奉れり  
此三前の大社等一心同徳上ハ皇統一系の國體を無窮ハ守  
護り奉り下ハ尊王愛國の臣民を永遠ハ惠助け給ふ神慮ハ  
て共ハ鎮座り給へるよし古記舊録ハ見へたり

### 建物の部

- 一 申殿ハ本宮二之御殿の南面ハあり天平三年の造立ハして  
勅使参宮のとき宣命を申す處かり又官私祭のとき幣使及  
ハ官司是より祝詞を奏し又相嘗祭のときハ是より献饌す  
一 渡殿ハ申殿と南中樓門との間ハあり天平三年の造立ハし  
て祭典ハ預る者廻廊より申殿ハ渡る處かり
- 一 廻廊ハ南中樓門の左右ハあり天平勝寶二年の造立ハして  
官私祭のとき幣使並ハ神官の幕舎ハ用ひ又東の一間ハ事  
務所に假用ふ又平日ハ参詣人はより拜禮す
- 一 御湯殿ハ回廊の西端と西中門の間ハあり天平勝寶七年の  
造立ハして大神の湯船代を納むる處かり

- 一南中樓門ハ申殿の正南ヨあり天平勝寶二年の造立ヨして勅使並ニ幣使参向の時のみ出入する門ナリ
- 一西中門ハ築地の正西ヨあり天平勝寶二年の造立ヨして御幣物進入並ニ神幸の時神輿出入の門ナリ
- 一北中東中の二門ハ築地の北と東ヨあり何れも天平勝寶二年の造立ヨして非常の時のみ開閉する門ナリ
- 一土塀一帯ハ築地の東北西三面ヨあり天平勝寶二年の造立ヨして上宮の内圍ナリ
- 一宿直所ハ築地外の東南隅ヨあり宿直者の詰所ヨして又平日御守を授くる所ナリ
- 一休息所ハ御寶藏の東ヨあり明治十年十二月當郡信者四名

- より築き奉る参詣人の休息所ナリ此休息所ヨマ宿直所マての間ニ木柵あり南面の外圍ナリ
- 一御寶藏ハ休息所の西ヨあり朝廷ヨマ奉納物及ヒ諸人ヨマ獻納物品を藏むる所ナリ周圍ニ玉垣あり西ヨ番屋あり
- 一神輿庫ハ西中門外の北ヨあり遷宮又ハ行幸會御祓祭等の時ヨ用ふる神輿を藏する所ナリ
- 一井戸ハ神輿庫の西ヨあり神饌を洗ふ水を汲む堀井ナリ上屋あり
- 一西大門ハ西中門の正西ヨあり天平勝寶二年の造立ナリ此門の左右ニ玉垣あり左ハ寶藏マて右ハ給ニ築地ヨ至る上宮の外圍ナリ

一鳥居一門西大門の正西よりあり  
一御輿掛ハ龜山の西口北側よりあり幣使及び官司の輿を倚置く所あり  
一高倉ハ下宮の門前よりあり神寶及び祭器を藏むる所あり  
一神馬舎ハ高倉の南より貞元二年の造立にして神馬を飼蓄する舎かり元菱形池の北よりしを明治十四年今の處より移せり  
一御木屋ハ龜山の南麓よりあり御造營材木を圍ひ置き且大工の職工此の場あり南面より藏及土塀あり  
一能舞臺ハ龜山の西麓よりあり安元元年の創立にして申樂を奏奉る場かり北より樂屋二棟土藏一棟あり西南東より定機敷

三棟あり西より門あり周圍より土塀あり何れも瓦葺きにして頗る堅固あり  
一揭示場ハ馬場の東舞臺の北より年中官私祭日を揭示せる處あり  
一繪馬舎ハ菱形池の中の小島よりあり明治三年の創立にして信者より奉納の繪馬を掲ぐる所かり該地ハ康和三年太宰大貳大江匡房卿奉寄の堂ありしを明治元年取崩せし跡あり  
一頓宮ハ馬場の北淺瀬川の南より延寶八年より再興せし御祓祭神幸の時の假舎かり神輿庫一棟常木屋二棟あり東よりハ神官の詰所西よりハ御守授與所かり又假小屋二棟あり

り神部の幕舎あり

一 大鳥井ハ馬場の北口よりあり

一 樓門ハ西入口吳橋の東よりあり

一 吳橋ハ樓門の西寄藻川より架たり此吳橋と樓門ハ元和年中細川侯奉建せしものあり

一 鉄鳥居ハ境内西口よりあり寛保三年江府住人藤本平左衛門奉建のものあり

一 燈籠百六十二基永盤十二箇何れも石作或ハ鉄製よて参詣道の左右より立列れり

一 狗犬二軀西大門の左右より向ひ立てり

一 制札四本境内四方入口よりあり

一 皇族下乗牌ハ攝社若宮の前よりあり

一 皇族下馬諸人下乗牌ハ龜山西入口より立てり

一 瓮石一帯龜山西入口より斜より上りて上宮の前より至る此間石壇五ヶ所三十一級あり

一 石壇二ヶ所龜山の南北よりあり南よりハ百級前馬場より南樓門前より上る参道あり北よりハ八十四級御田植場より若宮の北より出る便道あり

一 境内地惣坪數ハ三萬八千四百七十二坪七合二勺の内附屬地千六百五十八坪壹合四勺あり

一 祭日ハ三月十八日の例祭を始め年中八十余度あるが中より鎮疫祭陰曆正月十三日 二季致祭舊二月と十月の酉の日より卯日まで七日間つ、御田植祭舊六月廿六

五 御祓祭 舊六月晦日より七月二日 御祓祭 舊六月晦日より七月二日 虫振祭 舊七月 仲秋祭 舊八月十四日 日問和問漬 日まて三日 同神幸あり 舊九月廿日廿一 等ハ尤も大儀まて参詣人  
も数多あるかり

下宮並攝末社及祖靈社の部

一下宮ハ龜山の西麓あり祭神も上宮と同神も坐まして三殿とも嵯峨天皇弘仁年中の造立あり當宮地ハ幽林三面を圍み清水前も流れて頗る神意を慰むる勝地なれば上宮の分神を齋き奉れるものかり中古祭祀の毎度是より御饌奉りし故も御炊殿とも稱へり又上宮火災其他非常事變ある時ハ當宮もて祭祀を執行ひ又頓宮廢頽の後ハ上宮御造營の毎度當宮も假も遷坐せる事とされり御造營ハ上宮と同

しく古來官營たりし事ハ勿論おれとも上宮相對勸化よて造營も事とかりしよ又當宮も同し事とかりて今の殿宇ハ文化十二年より文政九年まてに改め立てしものかり渡殿回廊奏樂所宿直所御竈屋御門等九宇の建物あり又築地の東北西三面ハ筋塀よて圍へり例祭ハ三月十八日

境内攝社六社

一住吉神社ハ本宮築地内三の御殿の東側に坐し祭神ハ表筒之男命中筒之男命底筒之男命よして弘仁十四年四月の鎮座かり昔神功皇后三韓を征伐給ひしとき此神等の和魂は玉休に副奉りて壽命を守り奉り荒魂ハ御船の舳艫も鎮まりまして神力を添へ給ひし御由縁に依て三之御殿に副て

齋き奉れり例祭ハ六月三十日

一字佐祖神社ハ兩大門外の左傍ニ坐ル祭神ハ菟狹津彦命ニ  
リ此命宇佐國造ニして古來本宮ニ仕奉ル大官司宇佐氏の  
祖神ナル故ニ齋き奉れり往古より當村宇明神木に座シ  
明治九年十一月今の社殿に還シ奉れり周圍に玉垣あり祭  
日ハ舊三月と九月の五日ナリ

一若宮神社ハ一之鳥井の西ニ座ル社神ハ大鷦鷯命大葉枝皇  
子小葉枝皇子嶋鳥皇女卑總別皇子ニして何れも應神天皇  
の御子ナルが天長元年同七年兩度神託あるより仁壽二  
年十二月社を立て齋き奉れり前に拜殿周圍ニ玉垣あり例  
祭ハ三月十八日

一東宮神社ハ馬場南詰の小阜に座ル祭神ハ菟道若郎子命應  
神天皇の御子ニシテ故に齋き奉れり鳥井石壇等あり例祭  
ハ一月廿日

一大神祖神社ハ下宮三之御殿相殿ニ座ル祭神ハ大神比義翁  
ナリ此翁欽明天皇御宇始めて八幡大神の御名を顯ハシ奉  
りて爾來永く仕奉り子孫世々大官司ニ任セらるゝ故に齋  
き奉れり例祭ハ舊三月と九月の十七日兩度ナリ

一黒男神社ハ馬場大鳥居の西に座ル祭神ハ武内宿禰命此命  
生前より本宮祭神ニ仕へ奉りし故ニ齋き奉れり周圍に玉  
垣あり例祭ハ一月十四日

境外攝社十二社



一 大本山神社ハ本宮より五十丁南大本山の頂に座し祭神本宮と同じ此山即て豊國の宇佐島にして巖に三柱姫神天降り鎮坐し後應神天皇神功皇后の御靈鎮坐まし石を休とし水を心とし杉を社として坐まはかり拜殿休足所宿直所玉垣石壇等あり昔ハ寺院六坊ありて頗る盛なりしが明治元年の春兵燹より罹り今ハかくかれり又名所古跡も多けれとも悉くハ記さぬ末社八阪神社あり例祭四月十五日

一 大尾山神社ハ本宮の東大尾山の頂に坐す祭神ハ本宮と同じ神護景雲元年より延暦元年まで十六ヶ年の鎮坐よて和氣清盛朝臣君臣分定の神詔を蒙りしハ此社に坐は時かりあり名跡ある故よ今ハ嚴重齋き奉れり例祭は二季致祭

の日

右二社ハ本宮神官よて齋き奉る事境内攝社と同じ

一 薦神社ハ當國下毛郡大貞村よ坐は

一 奈多神社ハ豊後國東國崎郡奈多村よ坐す

一 鷹居神社ハ當郡上田村よ坐す

一 妻垣神社ハ當郡妻垣村よ坐す

右四社ハ何れも本宮の由緒深く舊來上下の信仰厚くして今大分縣々社よ列ねられり

一 郡瀬神社ハ當郡樋田村よ坐す

一 泉神社ハ當郡幸島村よ坐す

一 乙咩神社ハ當郡乙咩村よ坐す

一大根川神社ハ當郡佐野村ニ坐す

右四社ハ今宇佐郡郷社ニ列ねられたり

一小山田神社ハ當村字小山田山ニ坐す今小向野村々社ニ列  
ねられたり

一田筋神社ハ豊後國西國東郡界村ニ坐す今無格社ナリ右社  
々ハ欽明天皇三十二年ヨリ聖武天皇二年までの間御靈行  
のとき神跡を止め給へる所々ニ鎮坐すナリ此外ニ由緒深  
き御社豊前豊後の兩國ニ數多あれとも攝社ニ列らざれば  
記さば

### 境内末社十四社

一北辰神社ハ築地内の西北隅ニ坐す祭神ハ天之御中主神高

皇産靈神神皇産靈神上古より坐まして當宮地主神と稱へ  
奉れり

一春日神社ハ築地内の西ニ坐す祭神ハ天兒屋根命あり

一八子神社ハ回廊の西ニ坐す祭神詳ならず三十三箇の石を  
神体とし周圍ニ玉垣あり

一龜山神社ハ一の鳥居の南ニ坐す祭神ハ大山積命當山守  
護の神と齋き奉れり周圍ニ玉垣あり

一八阪神社ハ馬場の西ニ坐す祭神ハ須佐之男命本宮ニ之御  
殿の父神ニ座す故ニ齋き奉れり東北西の三面ハ土塀にて  
圍ひ西ニ番屋南ニ鳥井土舞臺水盤等あり例祭ハ舊正月十  
三日よて参詣人多し

一 女禰宜神社ハ馬場中央の西荒垣の内初澤池中ニ座す祭神ハ本宮女禰宜大神杜女之靈杜女ハ大官司大神氏の祖先カ  
ル故ニ齋キ奉レリ社殿カシ

一 水分神社ハ菱形池中の東小島ニ坐す祭神ハ高靈神天水分神國水分神天波匏持神國波匏持神雨乞の爲齋キ奉レリ

一 護王神社ハ菱形池中の西小島ニ坐す祭神ハ和氣清磨朝臣命此命孝謙天皇の御世宇佐使ヲ奉シテ參向シ君臣分定の神詔ヲ蒙リシ故ニ坐す齋キ奉レリ

一 木匠祖神社ハ菱形池中の北小島ニ座す祭神ハ手置帆負命彦狹知命當宮大工共の願ニ坐す元祿四年十二月五日ニ齋キ奉レリ

一 稻荷神社ハ菱形池中の中央小島ニ座す祭神ハ宇賀魂命信者の願ニ坐す天和二年三月十三日ニ齋キ奉レリ

一 天満神社祭神ハ菅原道真朝臣命カ一ハ菱形池中の南小島ニ坐す信者の願ニ坐す齋キ奉レリ一ハ西南附屬地の小阜ニ坐す安永三年四月ニ齋キ奉レリ

一 琴平神社ハ西南附屬地の小阜ニ坐す祭神ハ大物主大神と崇徳天皇の御靈カ信者の願ニ坐す寛政十二年十月ニ齋キ奉レリ番屋鳥居石壇等あり毎月十日ニハ參詣人頗ル多シ

一 愈加神社ハ西南隅附屬地の小阜ニ坐す祭神ハ豐受姬命手置帆負命日子狹知命信者の願ニ坐す齋キ奉レリ

境外末社五社

一 鉾立神社ハ大尾山の西麓ニ座ス欽明天皇三十二年八幡大神始めて顯れ給ひしとき大神比義梓を立て齋ひ奉れる神跡かり今ニ社殿を造らず石の玉垣にて御梓を圍へり

一 阿良禮神社ハ大尾山の西麓宇神氣<sup>カミケ</sup>ニ座ス此處ニ八幡大神の顯ハれ給ひし神跡かる故ニ祠を立て齋き奉れり

一 百體神社ハ當村字松隈ニ座ス祭神ハ大隅日向隼人の靈養老三年大隅日向の隼人亂を興し、とき朝廷の御祈ニ任せ吾大神神軍を發して三ケ年の間ニ悉く征ち亡し給ひて首級を埋めしむ忽ち惡鬼と成りて祟を爲す時ニ痘瘡を病むもの多きゆゑ其守神と齋き奉りけれハ感應新ありと

云ふ拜殿鳥井土塀あり

一 貴船神社ハ當村字大貴船ニ座ス祭神ハ靈神あり昔菰里の邊貴船の森ニ大蛇栖居て民の作毛を取り喰ふ故ニ靈神ニ祈りけれハ其害止みしニ依て即て該神を齋き奉れりとぞ

一 椎宮神社ハ當村字椎宮ニ座ス祭神ハ椎根津彦命あり此命神武天皇の日向より發足し、時皇船を導きて吾宇佐島ニ着らせ給へる神跡かる故ニ祠を立て齋き奉れり

一 祖靈社ハ吳橋内の南方ニあり氏子神葬祭の者の祖先の神靈を祭るあり

名所舊跡の部

一 御秤石ハ上宮ニ之御殿の裏ニあり大宮盛からんと云れハ

浮み出衰へんと此れハ沈み入るとあり

一勅使松ハ上宮西中門の北にあり古來勅使參宮の度毎々京の松を持來りて植ゑ奉られたるあり今あるハ文化と元治の雨度のものあり

一蟠松ハ上宮休息所の東にあり昔放生會執行ありしとき浮殿にて放ちやる蟠の居りし松と云ふ今のハ明治十五年に植かへたるものあり

一下井ハ龜山の北麓にあり八幡大神最初顯ハれ給ひて御心を寫されたる靈水あり又後々奇異ある翁顯ハれ此所にて鍛冶をせし故に又鍛冶場ともいふ周圍に土塚あり

一紫雲石ハ吳橋内の北にあり昔天平十六年放生會神事の節

神輿彌勒寺の北を通御あるへき順道ありしに忽ち紫雲空に霏き雲中聲ありて吾道場の側争ふ神輿を通すべき御堂の影危しと云つゝ紫雲落ちて石とありふると云ふ所あり周圍に玉垣あり

一仲哀天皇御廬所ハ吳橋内の北にあり天和元年の創立あり周圍に玉垣あり

一菱形池ハ龜山の北麓にあり中々小島六ヶ所石橋九筋を架け渡しするが何れも奇休あり 古歌に 豊國の菱の池は菱のうれをとるとや妹の袖ぬらぬらんと出たるハ此池の事あり

一放生池ハ馬場の西高燈籠の側にあり信者よて奉れる生魚

を放つ池あり

一御田植場ハ龜山の北百壇の下にあり毎年御田植の神事を行ふ所あり

一田人足洗池ハ龜山の南麓あり御田植神事るとき封戸向野辛島高家の四郷よま仕奉れる田人の足を洗ふ池あり

一橋樹ハ下宮の南庭あり二季致祭の時昔ハ宮巡の式ありて其神輿ま載せ奉りし稿香を掛くる料ありしとぞ

一サマシ竹ハ橋樹の並みあり昔對馬國の卜部吾若宮の拜殿よて龜を焼きて天下の吉凶を占へりしとき其龜をサマス料の竹を取りし所ありとぞ

一遙拜所ハ境内字塔の隈あり年中四度遙拜する所あり

一御物川ハ西の谷よまいて境内の南東を回りにて流れしり其下宮の前なる所よて神饌を洗ふ故よ御物川と云ふ

一境内の西北を回りにて流るゝ川の上流を寄藻川と云ふ吳橋此よ架れり勅使飛鳥井脚の影見れハ月も南よよるも川清き流をこする宮人と詠れしハ此川の事なり中流を月瀬川と云ふ螢の名所なり下流を淺瀬川と云ふ御祓を修むる所あり

一化粧水ハ松隈の西よありて今北宇佐村よ属けり昔放生會を行ひしとき神慮を慰め奉る角力取大要小要の化粧せし水あり石の玉垣あり

一御菜池ハ今北宇佐村字御幡よ属けり神饌の菜藻を取る池

あり  
 一浮殿ハ當郡松崎村ヨあり昔放生會を行ひし所かり今ハ松崎村の郷社を合せ祭れり明治十四年より放生會の名を仲秋祭と改めて昔の式百分の一を行へり此浮殿ニ附きたる鹽屋神放生塚水之江等の古跡多あり  
 右ハ大概かり委しきハ御縁起を見て知るべし

宇佐神宮本宮及攝社末社官私祭日表 ○官祭之印

○本宮祭之部	舊自六月三十日至七月二日	御神幸	每	○一日	本宮
一月二日 新年祭	舊七月七日	虫振祭		○一日	下宮
○一月三日 元始祭	全日	除風祭	月	○一日	若宮神社
○二月 祈年祭	舊八月自十四日至十六日	仲秋和間濱渡御祭		○十五日	大元神社
二月十一日 紀元節祭	舊九月	御田疇祭		○遙拜之部	
舊正月十日 饗疫祭	舊九月廿一日	除風報賽祭		○一月三十日	後月輪東山陵
○三月十八日 例祭	十一月三日	天長節祭		○二月十一日	紀元節
○全日 下宮祭	○十一月廿三日	新嘗祭		○四月三日	畝傍山東北山陵
舊二月自酉日至卯日 春祭	舊十一月自酉日至卯日	冬祭		○十月十七日	神嘗祭
四月一日 御正忌祭	○十二月三十一日	大祓		○攝社祭之部	
○六月三十日 大祓	○全日	除夜祭		○四月十五日	大元神社
舊六月廿五日 御田植祭	舊十二月十四日	御誕辰祭		舊八月十五日	薦神社

舊十一月卯	大尾神社	舊六月十日	大根川神社	四月四日	護王神社
○三月十八日	若宮神社	舊九月九日	妻垣神社	一月廿九日	女禰宜神社
○一月二十日	春宮神社	舊十一月中卯	小山田神社	十二月卅一日	八子神社
○六月三十日	住吉神社	○末社祭之部		舊三六月十日	琴平神社
○一月十四日	黒男神社	舊十一月初卯	銚立神社	舊八月初午	稻荷神社
舊○三月五日	宇佐祖神社	全日	阿良禮神社	舊正月廿日	貴船神社
舊○三月十七日	大神祖神社	二月十日	春日神社	舊正月六日	愛宕神社
舊三月五日	奈多神社	一月二十日	龜山神社	舊正月十五日	木匠祖神社
舊八月一日	田箆神社	六月十七日	北辰神社	舊八月廿五日	天滿神社
三月十五日	鷹居神社	舊正月十三日	八坂神社	二月一日	惟宮神社
全日	郡瀬神社	舊十一月二十日	百禮神社	舊三月十五日	念加神社
全日	泉神社	舊六月十五日	大元山八坂神社	○	
舊六月十六日	乙咩神社	舊七月廿八日	水分神社	每月十六日	祖靈社
舊十月廿四日				春秋分日	

明治十五年九月一日再版御届  
同 年九月音 刻成

出版人

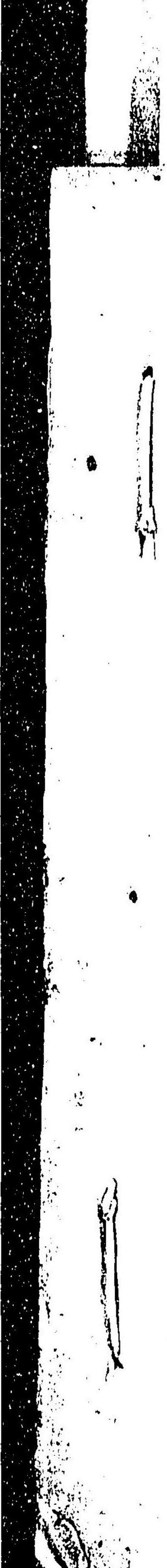
大分縣華族

到津公誼

定價金六錢

春前圖字佐那南字佐村  
三百八十一番地居住





Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a set of notes. The text is extremely faint and difficult to decipher, but appears to be arranged in several lines. Some characters resemble 'L' and 'A'.